



私は啓明学院が関学と協定を組んで10年一貫教育を始めた、共学部一期生です。友人や先生方に恵まれ、キリスト教教育を始めとした学びの機会を得て、充実した環境で学ばせていただいたと思っています。しかし私は、秘密を抱えて学生時代を過ごしました。

私は女性の体で、男性の自認のFtMトランスジェンダーです。また、恋愛対象を異性に限らないバイセクシュアルでもあります。自身の性のあり方が周囲と違うことは、自分を隠し偽るには十分な理由になりました。健康診断、体育の授業、トイレ、宿泊行事、部活の選択、男女別の名簿…そして制服。学校は男女分けて溢れています。そんな中で私は、「異性愛者の女子生徒」という嘘を纏いました。

本当は人生で一度だけの学生時代を、友人にも家族にも、自分にも嘘をつかず、ありのままの自分で過ごしたかった。本来の制服を着て、呼ばれたい名前と呼ばれ、本当に好きな人について恋バナをする、多くの若者が当たり前享受する学生時代がほしかった。

私は今、性の多様性を切り口にした人権講演を行っています。もうこれ以上、心を削る日々を過ごす子が一人でも生まれないように。

啓明学院では、2020年の4月から制服が変更されました。従来の男子制服・女子制服の2種類から、女子生徒のパンツスタイルを取り入れた3種類となりました。個人的には、どんな身体の生徒も、スカートもパンツも選べるような形式を理想としつつ、まずは大きな一歩だと感じています。どんな性の子も啓明で学ぶ権利と、多様性を尊ぶ学校としての姿勢を示す素晴らしい一歩になったと思っています。

多様性は、海の向こうにあるわけではありません。隣で学ぶ友人と自分自身の違いに気付き、違いを大切にしよう心が生み出す文化です。

母校が、この学校に関わる生徒、教職員、保護者、その他全ての人々を尊重する学校として、これからも豊かな学び舎であり続けることを心から願っています。